

デイゴ語の動詞

湯川 恭敏

はじめに

デイゴ語(chidigo)というのは、インド洋沿岸のケニアとタンザニアの国境地帯に話されるバントゥ系の言語であり、ミジケンダ(miji kenda)諸語の一つである。¹⁾ ミジケンダ諸語の祖語は、スワヒリ語の成立に関係していると考えられる。デイゴ語自体は、二重閉鎖音という比較的珍しい子音を有する以外は、文法的にもかなり簡単で、何の変哲もないバントゥ語といえるが、スワヒリ語との比較対照の上でも、文法を中心部分である動詞についてできる限り全面的に記述しておくことは、意味があると思われる。

本論文でこの言語の表記に用いる子音字とその概略的音価は、次の如くである。若干の例外を除き、ほぼ、慣用的正書法に従う。

b ([b]), ch (無声硬口蓋摩擦音), d ([d]), dz ([dz]), f ([f]), g ([g]),
 gw (g と b の二重閉鎖音), h ([h]), j (有声硬口蓋摩擦音), k ([k]),
 kw (k と p の二重閉鎖音), l ([l]), m ([m]), n ([n]), ng' (軟口蓋鼻音), ny (硬口蓋鼻音),
 p ([p]), ph (有声両唇摩擦音), s ([s]), sh (無声硬口蓋摩擦音), t ([t]), v ([v]),
 w ([w]), y ([j]), z ([z]), m/n (子音前鼻音).²⁾

母音字は、次の通りである。

i ([i]), e ([e]), a ([a]), o ([o]), u ([u]).

この言語のアクセントは一型化しており、単語の次末音節のみが高い。³⁾ 本論文ではアクセント表記は行わない。

この言語における人称主格・対格接辞⁴⁾の形は、次の通りである。

	主格	対格		主格	対格
単数 1 人称	ni/N ⁵⁾	ni	複数 1 人称	(t)u	(t)u
2 人称	u	ku	2 人称	m	a
3 人称	a	m	3 人称	a	a

m はいずれも音節主音をなす。

クラス⁶⁾ 主格接辞・対格接辞は、次の通りである。クラスは、名詞例で示す。純粹の名詞のクラスのみあげる。ハイフンは、接頭辞と語幹の境界を示す。I ~ VII は単数名詞のクラス、VIII 以降は複数名詞のクラスである。

I.	m-tu 「人」	単数 3 人称に同じ	
II.	mu-hi 「木」	u	u
III.	dzi-tso 「目」, fumo 「槍」 (接頭辞ゼロ)	ri	ri
IV.	chi-tunguu 「玉葱」	chi	chi
V.	pura 「鼻」 (接頭辞ゼロ)	i	i
VI.	rw-embe 「剃刀」, ru-he 「誕」	ri	ri
VII.	u-zi 「糸」	u	u
VIII.	a-tu 「人」 cf. I.	複数 3 人称に同じ	
IX.	mi-hi 「木」 cf. II.	i	i
X.	ma-tso 「目」, ma-fumo 「槍」, ma-he 「誕」 cf. III/VI.	ga	ga
XI.	vi-tunguu 「玉葱」 cf. IV.	vi	vi
XII.	pura 「鼻」 (接頭辞ゼロ), ny-embe 「剃刀」, ny-uzi 「糸」 cf. V/VI/VII.	zi	zi

この他に、おそらくただ1つの名詞からなるクラスがある。phatu 「場所」 (pha, pha) であるが、以下の記述では省略する。なお、形の点でどのクラスに属しようとも、人間・動物をあらわす名詞は、クラス IV/III と同じ扱いを受ける。クラス VI は、III に合流しつつある。この他に、対格接辞の一種として再帰接辞 dzi⁷¹ がある。

1. 不定形

この言語の動詞にも、不定形と呼んでよい形がある。

1-1. 肯定不定形

肯定の不定形(「～すること」の意)は、

ku + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。a は語尾である。

kugwa 「落ちる、倒れる」, kugura 「買う」, kushangaza 「驚かす」,

kusinzikiza 「送って行く」;

kuchigura 「それ (クラス IV) を買う」, kumshangaza 「彼を驚かす」,

kumsindikiza.

1-2. 否定不定形

否定の不定形(「～しないこと」の意)は、

ku + to + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。

kutogwa 「落ちない、倒れない」, kutogura 「買わない」, kutoshangaza, kutosinzikiza ;

kutochigura 「それを買わない」, kutomshangaza, kutomsindikiza.

2. 直説法形

直説法形に用いられる語尾としては、この言語においては a のみである。

2-1. 過去形

過去のある時点において行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + a + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。主格接辞 +a の形は、次の如くである。

単数 1 人称 na. 2 人称 wa. 3 人称 (= クラス I) wa.

複数 1 人称 twa. 2 人称 mwa. 3 人称 (= クラス VIII) a,

クラス II wa, III ra, IV cha. V ya, VI ra, VII wa, IX ya, X ga,

XI vya. XII za.

nagwa 「私は倒れた」, nagura 「私は買った」, nashangaza, nasinzikiza ;

nachigura 「私はそれを買った」, namshangaza, namsindikiza ;

twagura 「私たちは買った」.

2-2. 今日の過去形

その日に行われた行為をあらわす形は、

主格接辞 + ka + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。

nikagwa (= nkagwa. 以下同様) 「私は倒れた」, nikagura 「私は買った」,

nikashangaza, nikasinzikiza ;

nikachigura 「私はそれを買った」, nikamshangaza, nikamsindikiza ;

(t)ukagura 「私たちは買った」.

2-3. 現在形

今行われているか、いつも行われる行為をあらわす形は、

主格接辞 + na + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有し、単数 1 人称主格接辞 +na の形は、na である。

nagwa 「私は倒れる」, nagura 「私は買う (買っている)」, nashangaza,

nasinzikiza ;

nachigura 「私はそれを買う (買っている)」, namshangaza, namsindikiza ;

(t)unagura 「私たちは買う (買っている)」.

2-4. 未来形

未来に行われる行為をあらわす形は、

主格接辞 + nda + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。

nindagwa (= ndagwa. 以下同様) 「私は倒れる」, nindagura 「私は買う」,

nindashangaza, nindasinzikiza :
 nindachigura 「私はそれを買う」, nindamshangaza, nindamsindikiza :
 (t)undagura 「私たちは買う」.

2-5. 過去否定形

2-1の形に対応する否定形は、

ta + 主格接辞 + ya + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。ta+ 主格接辞の形は si, ku, ka, tau, 以下規則的な形である。⁸⁾

siyagwa 「私は倒れなかった」, siyagura 「私は買わなかった」, siyashangaza,
 siyasinzikiza ;
 siyachigura 「私はそれを買わなかった」, siyamshangaza, siyamsindikiza ;
 tauyagura 「私たちは買わなかった」.

2-6. 今日の過去否定形

2-2の形に対応する否定形は、

ta + 主格接辞 + ka + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。ta+ 主格接辞の形は、2-5に見た通りである。

sikagwa 「私は倒れなかった」, sikagura 「私は買わなかった」, sikashangaza,
 sikasinzikiza ;
 sikachigura 「私はそれを買わなかった」, sikamshangaza, sikamsindikiza ;
 taukagura 「私たちは買わなかった」.

2-7. 現在否定形

2-3の形に対応する否定形は、

ta + 主格接辞 + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。ta+ 主格接辞の形は、2-5に見た通りである。

sigwa 「私は倒れない」, sigura 「私は買わない (買ってない)」, sishangaza,
 sisinzikiza ;
 sichigura 「私はそれを買わない (買ってない)」, simshangaza, simsindikiza.
 taugura 「私たちは買わない (買ってない)」.

2-8. 未来否定形

2-4の形に対応する否定形は、

ta + 主格接辞 + nda + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。ta+ 主格接辞の形は、2-5に見た通りである。

sindagwa 「私は倒れない」, sindagura 「私は買わない」, sindashangaza,
 sindasinzikiza ;
 sindachigura 「私はそれを買わない」, sindamshangaza, sindamsindikiza ;

taundagura 「私たちは買わない」。

2-9. 過去進行形

過去のある時点において行われていた行為をあらわす形は、

kara + 現在形

という構造を有する。cf. 2-3.

kara nagura 「私は買っていた」, kara nashangaza, kara nasinzikiza ;

kara nachigura 「私はそれを買っていた」, kara namshangaza, kara namsindikiza ;

kara (t)unagura 「私たちは買っていた」。

この形は、2-10の形から見て、少し変な形である。⁹¹

2-10. 未来進行形

未来のある時点において行われている行為をあらわす形は、

kukara の未来形 + 現在形

という構造を有する。cf. 2-4.

nindakara nagura (= ndakara nagura, 以下同様) 「私は買っている」,

nindakara nashangaza, nindakara nasinzikiza ;

nindakara nachigura 「私はそれを買っている」, nindakara namshangaza,

nindakara namsindikiza ;

(t)undakara (t)unagura 「私たちは買っている」,

2-11. 過去進行否定形

2-9に見た形に対応する否定形は、

kara + 現在否定形

という構造を有する。cf. 2-7.

kara sigura 「私は買っていなかった」, kara sishangaza, kara sisinzikiza ;

kara sichigura 「私はそれを買っていなかった」, kara simshangaza,

kara simsindikiza ;

kara taugura 「私たちは買っていなかった」。

2-12. 未来進行否定形

2-10に見た形に対応する否定形は、

kukara の未来否定形 + 現在形

という構造を有する。cf. 2-8.

sindakara nagura 「私は買っていない」, sindakara nashangaza,

sindakara nasinzikiza ;

sindakara nachigura 「私はそれを買っていない」, sindakara namshangaza,

sindakara namsindikiza ;

taundakara (t)unagura 「私たちは買っていません」。

2-13. 過去完了形

既にある行為が行われたことをあらわす場合は、2-2に見た今日の過去形の後に kare (「もう」) を続けるが、過去のある時点において既に行われていた行為をあらわす形は

kara + 今日の過去形

という構造を有する。

kara nikagura (= kara nkagura. 以下同様) 「私はもう買っていた」。

kara nikashangaza. kara nikasinzikiza ;

kara nikachigura 「私はもうそれを買っていた」, kara nikamshangaza,

kara nikamsindikiza ;

kara (t)ukagura 「私たちはもう買っていた」,

2-14. 未来完了形

未来のある時点において既に行われている行為をあらわす形は、

kukara の未来形 + 今日の過去形

という構造を有する。

nindakara nikagura (= ndakara nikagura. 以下同様) 「私はもう買っている」。

nindakara nikashangaza, nindakara nikasinzikiza ;

nindakara nikachigura 「私はもうそれを買っている」, nindakara nikamshangaza,

nindakara nikamsindikiza ;

(t)undakara (t)ukagura 「私たちはもう買っている」,

2-15. 現在完了否定形

まだある行為が行われていないことをあらわす形は、

ta + 主格接辞 + dzambwe + 不定形

という構造を有する。

sidzambwe kugura 「私はまだ買っていません」, sidzambwe kushangaza,

sidzambwe kusinzikiza ;

sidzambwe kuchigura 「私はまだそれを買っていません」, sidzambwe kumshangaza,

sidzambwe kumsindikiza ;

taudzambwe kugura 「私たちはまだ買っていません」,

2-16. 過去完了否定形

2-13に見た形に対応する否定形は、

kara + 現在完了否定形

という構造を有する。

kara sidzambwe kugura 「私はまだ買っていませんでした」,

kara sidzambwe kushangaza. kara sidzambwe kusinzikiza ;
 kara sidzambwe kuchigura 「私はまだそれを買っていなかった」.
 kara sidzambwe kumshangaza. kara sidzambwe kumsindikiza ;
 kara taudzambwe kugura 「私たちはまだ買っていなかった」.

2-17. 未来完了否定形

2-14に見た形に対応する否定形は、

kukara の未来形 + 現在完了否定形

という構造を有する。

nindakara sidzambwe kugura (= ndakara sidzambwe kugura. 以下同様)
 「私はまだ買っていない」.

nindakara sidzambwe kushangaza. nindakara sidzambwe kusinzikiza ;
 nindakara sidzambwe kuchigura 「私はまだそれを買っていない」,
 nindakara sidzambwe kumshangaza. nindakara sidzambwe kumsindikiza ;
 (t)undakara taudzambwe kugura 「私たちはまだ買っていない」.

3. 命令・禁止形

3-1. 命令形

相手が単数の場合と複数の場合では、命令に用いられる形が異なる。

3-1-1. 対単数命令形

相手が単数の場合の命令形は、

(単数1人称対格接辞 +) 語幹 + a あるいは 対格接辞 + 語幹 + e

という構造を有する。

gwa 「倒れろ」, gura 「買え」, shangaza, sinzikiza ;
 nishangaza 「私を驚かせろ」, nisindikiza ;
 chigure 「それを買え」, mshangaze 「彼を驚かせろ」, msindikize.
 不規則形として、kwedza 「来る」の命令形 ndzoo が採取されている。

3-1-2. 対複数命令形

相手が複数の場合の命令形は、

(単数1人称対格接辞 +) 語幹 + a + ni あるいは 対格接辞 + 語幹 + e + ni

という構造を有する。

gwani 「倒れろ」, gurani 「買え」, shangazani, sinzikizani ;
 nishangazani 「私を驚かせろ」, nisindikizani ;
 chigureni 「それを買え」, mshangazeni 「彼を驚かせろ」, msindikizeni.

3-2. KA 命令形

「ここでなくどこかへ行って～しろ」という意味の命令形があり、

ka + (対格接辞 +) 語幹 + e

という構造を有する。

kagwe 「(行って) 倒れろ」, kagure 「買え」, kashangaze, kasinzikize ;

kachigure 「それを買え」, kamshangaze, kamsindikize.

kanirehere kande

「行って私に食べ物 (kande) を持って来 (<kurehera 「～に持ってくる」) て」.

3-3. 禁止形

相手に禁止する場合の形は、

主格接辞 + si + (対格接辞 +) 語幹 + e

という構造を有する。当然のことながら、主格接辞は2人称のそれである。

usigwe 「倒れるな」, usigure 「買うな」, usishangaze, usisinzikize ;

usichigure 「それを買うな」, usimshangaze, usimsindikize ;

msigwe 「(君たち) 倒れるな」.

4. 接続法形

「～が～するように」と訳すと何となく意味の通じる形があり、「接続法」と呼ばれることが多い。ここでは、その形とそれに対応する否定形を見る。

4-1. 接続法形

肯定の接続法形は、

主格接辞 + (対格接辞 +) 語幹 + e

という構造を有する。

agwe 「彼(ら)が倒れるように」, agure 「彼(ら)が買うように」, ashangaze, asinzikize ;

achigure 「彼(ら)がそれを買うように」,

amshangaze 「彼(ら)が彼を驚かせるように」, amsindikize.

若干の用例をあげる。

naenda kazi ili ana angu aphahe nguo 「わたしは、私の(-angu)子供たち(ana)が

着物(nguo)を手に入れ(<kuphaha)られるように(ili)働い(<kuenda kazi)ている」,

mriche edze 「彼を来(<kweza)させ(<kuricha)ろ」(edze <a-edze),

mia kura uzungumze naye

「あそこへ(kura)行っ(<kumia)て彼と(naye)話(<kuzungumza)せ」

lit. 「彼と話すようにあそこへ行け」,

tumie 「行こう」,

tumie? 「行こうか」,

ninwe madzi gano? 「この(-no)水(madzi)飲ん(< kunwa)でいい?」,

afadhali urare sasa

「お前もう(sasa)寝(< kurara)たほうがいい(afadhali)」,

lazima urare sasa

「お前もう(sasa)寝(< kurara)なけりゃいけない(lazima 「ねばならない」)」,

waniambira nirehe chitabu

「彼は私に本(chitabu)を持って来(< kureha)いといっ(< kuambira)た」,

なお、2人称形は命令にも用いるようである。

4-2. KA 接続法形

「(別の場所で) ~が~するように」といったことをあらわす形があり、

主格接辞 + ka + (対格接辞 +) 語幹 + e

という構造を有する。

akagwe 「彼(ら)が倒れるように」、akagure 「彼(ら)が買うように」、

akashangaze, akasinzikize :

akachigure 「彼(ら)がそれを買うように」、

akamshangaze 「彼(ら)が彼を驚かせるように」、akamsindikize,

mia ukanirehere kande 「行って、私に食べ物を持って来い」(cf. 3-2.),

mia kura ukazungumze naye 「あそこへ行って彼と話(せ)」(cf. 4-1.).

4-3. 接続法否定形

否定の接続法形は、

主格接辞 + si + (対格接辞 +) 語幹 + e

という構造を有する。

asigwe 「彼(ら)が倒れないように」、asigure 「彼(ら)が買わないように」、

asishangaze, asisinzikize :

asichigure 「彼(ら)がそれを買わないように」、

asimshangaze 「彼(ら)が彼を驚かせないように」、asimsindikize,

lazima usirare sasa

「お前今(sasa)寝(< kurara)ちゃいけない(lazima)」,

この形の2人称形で禁止の意味で用いられたものは、3-3で見た。

5. 連体修飾形

動詞がうしろから名詞を修飾する時の形を見る。

5-1. 関係代名詞を用いない形

関係代名詞を用いない連体修飾形は、他の多くのバントゥ諸語とは異なり、どうも十分にそろっていないようである。

5-1-1. 過去形

2-1に見た形に対応する連体修飾形は、

主格接辞 + o + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。主格接辞 +o の形は、次の如くである。ただし、データにあるのは、被修飾名詞が動詞のあらわす行為の主体をあらわす場合のみである。

クラス I we, II o, III ro, IV cho, V yo, VI ro, VII o, VIII o, IX yo, X go,
XI vyo, XII zo.

mtu wegwa 「倒れた人」, ~ wegura 「買った人」, ~ weshangaza, ~ wesinzikiza :

mtu wechigura 「それを買った人」, ~ wemshangaza, ~ wemsindikiza :

atu ogwa 「倒れた人々」.

5-1-2. 今日の過去形

2-2に見た形に対応する連体修飾形は、

cho + 主格接辞 + o + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。cho+ 主格接辞 +o の形は、次の如くである。ただし、データにあるのは、被修飾名詞が動詞のあらわす行為の主体をあらわす場合のみである。

クラス I che, II choo, III ro, IV cho, V choyo, VI ro, VII choo, VIII choo, IX choyo,
X go, XI vyo, XII zo.

X ~ XII は未確認である。そもそも、データにある III/IV の形にも疑問を感じる。この連体修飾形自体がこの方言において廃れはじめているのかも知れない。

mtu chegwa 「倒れた人」, ~ chegura 「買った人」, ~ cheshangaza, ~ chesinzikiza :

mtu chechigura 「それを買った人」, ~ chemshangaza, ~ chemsindikiza :

atu choogwa 「倒れた人々」.

5-1-3. 現在形

2-3に見た形に対応する連体修飾形は、

主格接辞 + (対格接辞 +) 語幹 + a + 主格接辞 + o

という構造を有する。主格接辞 +o の形は、次の如くである。

クラス I ye, II ho, III ro, IV cho, V yo, VI ro, VII ho, VIII ho, IX yo, X go,
XI vyo, XII zo.

mtu aguraye 「買う(買っている)人」, ~ ashangazaye, ~ asinzikizaye :

mtu achiguraye 「それを買う(買っている)人」, ~ amshangazaye,

~ amsindikizaye :

atu aguraho 「買う(買っている)人々」.

この形の場合、被修飾名詞が動詞のあらわす行為の主体以外のものをあらわす場合の形が確認されている。最初の主格接辞は、行為の主体に対応し、あとの主格接辞は被修飾名詞に呼応する。

ni chitu chani utunzacho 「何を見ているの」

lit. 「あなたが見(< kutunza)ているのは何(chitu chani)です(ni)か」.

ni chitu chani uandikiracho 「何で書いているの」

cf. kuandikira 「～で書く」.

ni chitabu chiphi urondacho kuguza 「どの本売りたいの」

lit. 「あなたが売り(< kuguza)たい(< kuronda)のは、どの(-phi)本(chitabu)ですか」.

なお、この形に対応する否定形として、

主格接辞 + si + (対格接辞 +) 語幹 + a + 主格接辞 + o

という構造のものがある可能性があるが、調査もれである。

5-1-4. 未来形

2-4に見た形に対応する連体修飾形は、

nde + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。ただし被修飾名詞がクラスIの場合しか確認されていない。nde の部分が変異する可能性もあるが、不変の可能性もある。この連体修飾形自体もこの方言において廃れはじめているのかも知れない。

mtu ndegura 「買う人」. ~ ndeshangaza, ~ ndesinzikiza :

mtu ndechigura 「それを買う人」. ~ ndemshangaza, ~ ndemsindikiza.

5-2. 関係代名詞を用いる形

ここに関係代名詞というのは、

amba + 主格接辞 + o

という形であり、主格接辞 + o の形は、5-1-3に見た通りである。関係節は、このあとに直説法形を続ける。

mtu ambaye kaya (t)ufundisha 「私たちを教え(< kufundisha)なかった人」.

cf. 2-5.

chitunguu ambacho chikagwa 「落っこちた玉葱」. cf. 2-2.

amba の直後の主格接辞は、被修飾名詞が動詞のあらわす行為の主体をあらわさない場合でも、被修飾名詞に呼応する。

mtu ambaye nampha chitabu 「私が本(chitabu)をあげ(< kupha)た人」

(-m- は対格接辞).

chitabu ambacho nachigura 「私が買った本」 (-chi- は対格接辞).

mtu ambaye chitabu che nachikwanyura 「(その人の)本(chitabu che)を私がやぶっ

(< kukwanyura)た人」 (-chi- は対格接辞). cf. 2-1.

amba は元来「いう」という意味の動詞(語幹 + a)である。ところで、こうした形はスワヒリ語にもあり、ディゴ語の形と関係があることは明らかであるが、どちらからどちらに借用されたのかの推論は保留したい。因みに、内陸部出身のスワヒリ語の話者の一人は、スワヒリ語のこの形は「学校で教わる形」だといってくれた。

6. 並行形

「～しながら」「～したら」といったことをあらわす形は、

主格接辞 + chi + (対格接辞 +) 語幹 + a

という構造を有する。単数1人称主格接辞は、niである。

achigura 「(彼が)買いながら」, achishangaza, achisinzikiza :

achichigura 「(彼が)それを買ひながら」, achimshangaza, achimsindikiza.

anaya achisoma chitabu 「彼は本(chitabu)を読み(< kusoma)ながら食べ(< kuya)ている」.

cf. 2-3.

nindamwambira achedza 「彼が来れば(achedza < achi-edza < kwedza 「来る」)伝え(< kwambira)

ます」. (-mw- は母音前の m の形) cf. 2-4.

hata mvura ichinya, nindamia

「私は雨(mvura)が降っ(< kunya)ても(hata)行く(< kumia)」. cf. 2-4.

7. 派生動詞

次に、派生動詞のうち、生産的なものをあげる。

(1) 適用動詞

語幹が、最終母音が e/o なら er、それ以外は ir で延長されたもので、「～にむかって/～のために/～で～する」といった意味を有する。

kutsomorera 「～のために抜いてやる、～で抜く」. cf. kutsomora 「抜く」.

kuandikira 「～に書いてやる、～に手紙を書く、～で書く」.

cf. kuandika 「書く」.

(2) 受身動詞

語幹末に w を置いた形は、「～される」という意味を有する。

kuoragwa 「殺される」. cf. kuoraga 「殺す」.

kurorwa 「(女が)結婚する」. cf. kurora 「(男が)結婚する」.

itye waoragwa na rumu ni msenawe 「彼(itye)は彼の友達(msenawe)に(ni)ナイフ(rumu)で(na)

殺された」. cf. 2-1.

(3) 使役動詞

語幹が、最終母音が e/o なら es、それ以外は is で延長されたもので、「～させる」という意味を有する。

kuendesha 「行かせる、運転する」. cf. kuenda 「行く」.

kuimisa 「立ち止まらせる」. cf. kuima 「立ち止まる」.

元来、(いわゆる「自動詞の他動詞化」も含めて)「使役」をあらわす接尾辞には複数のものがあり、すでにどの語幹にどれがつくか決まってしまうものが多いので、そういう場合、生産的とはいえない。

kuguza 「売る」. cf. kugura 「買う」.

kuramsa 「起こす」. cf. kuramka 「目を覚ます」.

おわりに

この言語ではアクセント対立が消滅しているが、他のバントゥ諸語でアクセント対立が完全に消滅しているといえるものに、筆者の知る限り、タンザニアのザラモ語、ニャキュサ語、ウガンダのトーロ語、ザンビアのトゥンブカ語それにスワヒリ語がある。面白いことに、互いに離れた地域に話される言語が含まれているのに、これらは共通して、大まかにいって単語の次末音節のみが高いという形でアクセント対立を失っているのである。ディゴ語・ザラモ語・スワヒリ語を除き、それぞれ固有の経路を通してそうなったのだと思われるが、アクセント対立消滅の過程を考える上で興味深い事実である。

注

- 1) この言語の調査は、80年代前半に文部省科学研究費補助金を得て日本で行った。インフォーマントは、1956年にタンザニアの Tanga に生まれ、当時日本に留学中であった、Amani Juma Kasinya 氏である。同氏は、その後、8年間ほど大阪外国語大学でスワヒリ語の非常勤講師を勤めた。
- 2) h は軟らかい音で、時に発音されないこともある。
w/y は、半母音としても用いられる。ny で表記した音は、半母音 y を含むものではない。
子音前鼻音は、次の子音と同じ位置で閉鎖や狭めを形成する鼻音で、同一音素と考えるべきであるが、唇子音の前で m、その他で n で表記する。なお、mu に由来する音節主音の m も存在する。唇子音以外の子音の直前に書かれた m は、例外なく音節主音の m である。
- 3) この点、スワヒリ語と同様である。ただし、多くのミジケンダ諸語は、アクセント対立を有するようである。
- 4) 動詞のあらゆる行為の主体たる人称もしくは主体をあらゆる名詞のクラスに呼応して音形交替する部分を主格接辞、行為の対象たる人称もしくは対象をあらゆる名詞のクラスに呼応して音形交替する部分を対格接辞と呼ぶことにする。人称主格・対格接辞とクラス主格・対格接辞を分けてあげているが、本質的には同種のものである。
- 5) N は、子音前鼻音を示す。
- 6) 「クラス」というのは、印欧語等に見られる「性」に似た名詞の下位範疇であるが、名詞のあらゆるものの自然的性には関係がなく、かつ、「性」よりずっと数が多い。
- 7) 行為の主体が何であっても、形は不変である。
- 8) la + ni/u/a が si/ku/ka に変化することは考えにくい。si/ku/ka は他の何らかの形からの流入であると考えられる。
- 9) 2-10の形で明らかなように、kukara という動詞があり(意味は「なる」)、それが2-10の形のように用いられるのは理解できるが、その語幹 +a の部分がこの形のように用いられるのは、奇妙である。

Verb in Digo

YUKAWA Yasutoshi

Digo is a Bantu language spoken on both sides of the Kenya-Tanzania border near Indian Ocean and belongs to the so-called Mijikenda languages.

This language has totally lost its original tonal contrast with the result that the penultimate syllable of each word is high, the rest being low.

Its verb consists of around seventeen indicative forms such as Past, Hodiernal Past, Present, Future, Past Negative and so on, as well as the infinitive, the imperatives, the subjunctives, etc. The aim of this paper is to morphologically describe those forms, giving several examples for each.